



# 謹賀新年

恵生会 基本理念 「病院に関わる人すべての幸せを願う。」

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

この原稿を執筆するにあたり、昨年1年間を振り返ってみました。

まず年頭の冬季オリンピックやサッカーのワールドカップといった大きなスポーツイベントをはじめ、メジャーリーグの大谷選手、テニスの大坂なおみ選手など、世界での日本チーム・日本人選手の活躍が目立ち、例年以上にスポーツニュースやスポーツ観戦が盛り上がりました。

また、その一方で大阪や北海道の地震、西日本の7月豪雨、近畿地方を中心に被害を出した台風21号、豪雪、猛暑など自然災害・異常気象が目立った1年でもありました。個人的にも大雪や猛暑で非常に苦労したのをつい先日のことのように思い出します。今年はスポーツでの日本人の活躍は引き続き多く、災害や異常気象は少ない1年になることを望みます。

病院に関していえば、認知症患者の入院数が増加したことがあげられます。人口に占める65歳以上の高齢者の割合が27.7%と過去最高を記録し、認知症患者も増加していると推測されますが、記録力障害、見当識障害、判断力の障害、高次機能障害などの認知機能障害があることや、副作用が出

やすく重大な事故や身体症状につながりやすいことから、元々外来治療が難しく、他の疾患より入院加療の必要性が高いためだと考えられます。

その一方で近年まで当院を含めて精神科病院の入院患者の多くを占めていた統合失調症患者の方々は新規の入院患者も入院患者の割合も減っています。前者は抗精神病薬の進歩、精神科・心療内科クリニックが増加したこと（それに伴い精神科・心療内科の敷居が低くなり早期の治療介入が可能となつてきていること）から、入院にまで至らないケースが増えたことや、先程とは逆に少子化の影響も考えられます。後者は慢性入院患者の方々の高齢化が影響していると思われれます。

今後も少子高齢化はさらに進み、クリニックは増え、社会的入院患者の高齢化も進むと推測されますから、上記の傾向、すなわち精神科入院医療の中心は統合失調症から認知症にシフトしていくという傾向は年々強まっていくものと思われれます。

もちろん入院していても、認知症患者の方は記録力障害や見当識障害などから他の患者さんの部屋に勝手に入るなどのトラブルを引き起こしたり、転倒・過鎮静といった薬剤性の副作用が出現しやすいのは変わりありません。また肺炎などの身体合併症も引き起こしやすくなっていますし、食事や排泄、入浴などの介助の必要性も高くなっています。それらに加え進行性の病態という特徴を含め、患者さんの家族への対応も重要となってきます。看護スタッフを中心に全職種で負担が大きくなっていきますが、時代の変化に合わせて柔軟に対応していかなければいけません。また当院だけでは対応できない身体疾患に関しては、専門病院の協力が必要となつてきます。

最後になりますが、今年が皆様にとって幸多い年となるよう、祈念いたします。

## 年頭にあたつて



院長 澁谷 太志



# すずらん



第27号

平成31年1月1日 発行

医療法人 恵生会 広報委員会

〒950-3102  
新潟市北区島見町  
4540番地  
TEL 025-255-2121(代)

## お問い合わせ

南浜病院

〒950-3102  
新潟市北区島見町  
4540番地  
TEL 025-255-2121  
FAX 025-255-3532  
URL www.k-seikai.jp